



職種や等級によって評価項目が異なる場合の イベントの設定例

職種や等級によって評価項目が異なる場合のイベントの設定例

- コンピテンシー(行動・プロセス)評価などで職種や等級によって評価項目が異なるケースでスマートレビューにイベントを作成する場合、以下の方法で作成することができます。
 本資料では、赤枠の「判定式パーツを使用して表示を切り替える」場合、どのような方法で設定することができるのかご案内します。

	判定式パーツを使用して表示を切り替える	イベントを分けて運用する
概要	判定式パーツを使用して、同一イベント内で職種や等級ごとに評価内容を出し分ける	職種や等級によってイベントを分けて作成する
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 同一イベント内で評価内容を出し分けることができるため、評価をまとめて運用/管理することができる 1つのイベントにまとめて管理ができるため、データ連携機能を使用すればプロファイルブックに簡単にデータを連携できる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な項目のみが表示されるため、入力不要な内容や文言が表示されない 職種や等級に応じた評価項目ごとに、必須入力の制御を行うことができる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目の入力箇所や個数が異なる場合、職種や等級毎に項目の必須入力の制御ができない (等級によって評価対象外の項目も入力することができる) ⇒本資料で回避策もご案内します 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのイベントに分かれるため、複数のイベントを管理する必要がある 評価データが各イベント毎に分かれるため、データをまとめる際にはCSVの成型が必要

判定式パーツを使用して表示を切り替える

▶ 判定式パーツとは

判定式パーツは「条件となる値によって、違う結果を表示したい場合」に利用できるパーツです。このパーツを使うことで、職種や等級に応じて評価項目の内容を出し分けることが可能です。

例) 等級に応じて、評価項目の内容を出し分ける

判定式パーツで等級ごとに表示内容を設定することで・・・

評価項目①

パーツに設定する判定式 (記入例)

[等級]='等級1', 専門知識の習得
[等級]='等級2', プレゼンテーション力
[等級]='等級3', 論理思考

選択した等級ごとに評価項目を出し分けることができる！

等級
等級1

評価項目1
専門知識の習得

自己評価1 A
一次評価1 A
二次評価1 A

等級
等級2

評価項目1
プレゼンテーション力

自己評価1 A
一次評価1 A
二次評価1 A

設定の解説

- 判定式 [等級]='等級1', 専門知識の習得
「等級」の項目が等級1のとき、
「専門知識の習得」を「評価項目①」に表示する

▶ 判定式を使うデメリット

評価項目の入力箇所や個数が異なる場合、判定式パーツを使用すると職種や等級毎に項目の必須入力の制御を行うことができません。（職種や等級によって評価対象外の項目も入力することができる）

必須入力の制御を行うことはできませんが、**アラートメッセージを表示したり評価対象外の項目は最終結果に含めないように計算するなど、フォーム設計を工夫することで上述したデメリットを回避することができます。**

次頁以降で、回避策の内容と設定方法をご案内します。

▶ 回避方法

1. アラートメッセージを表示する

- ・ 概要：計算式や判定式を使用して、評価対象外の項目には「評価対象外です」などのメッセージを表示します

2. 入力確認用のチェックボックスを設定する

- ・ 概要：入力確認用のチェックボックスを作成し、このパーツを入力必須とすることで、被評価者や評価者に必要箇所の内容入力完了しているか、確認を促します。

3. 評価対象項目のみ計算し、最終結果を算出

- ・ 概要：職種や等級ごとの評価対象項目のみの評価結果を計算し、誤って評価対象外の項目に内容が入力されていても最終結果に反映できないようにします。

①アラートメッセージを表示する

- 職種や等級によって評価項目の数が違う（等級1では評価項目が3つ/等級2では評価項目が2つなど）場合、計算式や判定式を使用して、アラートメッセージを設定することで、自身の評価項目の入力を促すことができます。次頁以降で、具体的な設定例をご案内します。

例) 職種や等級によって評価項目の数が違うケース

・“等級1”では評価項目が3つ

等級 等級1			
評価項目1 専門知識の習得	自己評価1 (指定なし)	一次評価1 (指定なし)	二次評価1 (指定なし)
評価項目2 文章力	自己評価2 (指定なし)	一次評価2 (指定なし)	二次評価2 (指定なし)
評価項目3 処理速度	自己評価3 (指定なし)	一次評価3 (指定なし)	二次評価3 (指定なし)

・“等級2”では評価項目が2つ

等級 等級2			
評価項目1 プレゼンテーション力	自己評価1 (指定なし)	一次評価1 (指定なし)	二次評価1 (指定なし)
評価項目2 傾聴力	自己評価2 (指定なし)	一次評価2 (指定なし)	二次評価2 (指定なし)
評価項目3	自己評価3 (指定なし)	一次評価3 (指定なし)	二次評価3 (指定なし)

評価項目が無い場合でも、
選択肢から評価を選択するこ
とができてしまう・・・

⇒計算式や判定式パーツを使用して
アラートメッセージを表示し、
評価対象外の項目であることを認識させる！

①アラートメッセージを表示する

▶ アラートメッセージの設定や表示例をご紹介します。

例) 評価対象外の項目がある場合に 入力不要である旨をメッセージで表示する

アラート①

パーツに設定する判定式 (記入例)

```
[等級]='等級1',
[等級]='等級2';※評価対象外のため入力不要です
[等級]='等級3';※評価対象外のため入力不要です
```

評価項目3	自己評価3 (指定なし) ▾	一次評価3 (指定なし) ▾	二次評価3 (指定なし) ▾
-------	-------------------	-------------------	-------------------

※評価対象外のため入力不要です

例) 評価対象の項目が入力されていない場合に アラートメッセージを表示する

アラート②

パーツに設定する計算式 (記入例)

```
IF([評価項目①]<>"",IF([自己評価①]="",↑評価  
を入力してください","", ""))
```

等級 等級2 ▾			
評価項目1 プレゼンテーションカ	自己評価1 (指定なし) ▾	一次評価1 (指定なし) ▾	二次評価1 (指定なし) ▾

↑評価を入力してください



設定の解説

「等級」の項目が等級1のときは、空白を表示し、「等級」の項目が等級2/等級3のときは、「※評価対象外のため入力不要です」とメッセージを表示する



設定の解説

「評価項目①」にデータが入力されており、かつ「自己評価①」が空白（選択されていない）場合、「↑評価を入力してください」と表示する

①アラートメッセージを表示する

➤ 前頁で紹介しましたアラートメッセージは、目標の入力数が人によって違う場合にもご利用いただけます。

例) 目標は入力されているが、結果が空白だった場合に、アラートメッセージを表示する

結果入力アラート

パーツに設定する計算式 (記入例)

```
if([目標①]<>"",if([結果①]="","↑未入力です",""))
```

数値として扱う

ラベルを付ける

目標1	ウェイト1	結果1
個人予算〇億の達成	10%	

↑未入力です



設定の解説

「目標①」の項目にデータが入力されていて、「結果①」の項目が空欄（データが入力されていない）の場合、「↑未入力です」とメッセージを表示する

※同様の方法で、**ウェイト**が入力されていない場合にアラートメッセージを表示する等も可能です。

②入力確認用のチェックボックスを設定する

- ▶ 必須入力の設定は、パーツ（項目）ごとに設定できるため、職種や等級によって判定式パーツで内容を出し分けたり、人によって目標の設定数が異なる場合には必須入力の制御を行うことができませんが、以下のような入力確認用のチェックボックスを作成し入力必須のパーツとすることで、被評価者や評価者に必要箇所の内容入力が完了しているか、確認を促すことができます。

・画面イメージ

The image shows a confirmation dialog box with the text "全ての評価を入力したことを確認しましたか？" (Have you confirmed that you have entered all evaluations?). A red box highlights the "確認しました" (Confirmed) checkbox, which is currently unchecked. A red arrow points from this checkbox to a configuration window titled "入力確認用チェックボックス" (Confirmation Checkboxes). This window has a section "パーツに設定する選択肢" (Options to set for parts) containing the text "確認しました". Below this, there are two checked checkboxes: "このパーツを入力必須にする" (Make this part mandatory) and "ラベルを非表示にする" (Hide label). A red box highlights the "このパーツを入力必須にする" checkbox.

全ての評価を入力したことを確認しましたか？

*
 確認しました

入力確認用チェックボックス

パーツに設定する選択肢
確認しました

このパーツを入力必須にする
 ラベルを非表示にする

確認用のチェックボックスを必須入力に設定し、
従業員に必ず入力させる
(入力しないと確定操作ができない制御をする)

③ 評価対象項目のみ計算し、最終結果を算出

- ▶ 誤って評価対象外の項目の入力をした場合でも、最終的な評価の計算から除外することで、評価対象の項目のみを計算することが可能です。

等級
等級2

評価項目	自己評価	一次評価	二次評価
評価項目1 プレゼンテーション力	A	A	S
評価項目2 傾聴力	C	B	B
評価項目3	B	A	A

※評価対象外のため入力不要です

【総合点数】 (S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点と換算)

自己評価	一次評価	二次評価
6	7	8

自己評価合計

パーツに設定する計算式

```
IF([等級]="等級1",SUM([自己評価①],[自己評価②],[自己評価③]),
IF([等級]="等級2",SUM([自己評価①],[自己評価②]),
IF([等級]="等級3",SUM([自己評価①],[自己評価②]),""))
```



設定の解説

「等級」の項目が等級1のときは、「自己評価①～自己評価③」の値を合計し、等級2/等級3のときは、「自己評価①～自己評価②」を合計する。

評価対象外の項目に入力があっても、点数には計算されないように制御